

すべてのひとり親家庭を 孤立させないための連携と支援者育成

認定NPO法人わははネット
理事長 中橋恵美子

シングル家庭への支援メニューは少しずつ増えているが「離婚前」の家庭へのアプローチするメニューは少ない。

離婚前に丁寧に相談を行い、離婚後の生活もシュミレーションできるような情報提供や、各機関と連携することで「離婚回避」、あるいは「しっかりと離婚後の生活を想定した準備」ができると考えられる。

子育て家庭にとって身近な「子育て支援拠点」を中心に巻き込みながら本事業を遂行することで、シングル支援のみならず「プレ・シングル」の実態把握を行ったうえで実態に沿った支援メニューを作り、機能的で身近な連携ネットワークを構築する。

- ①プレ・シングルの実態調査
- ②シングルの人に「離婚前の状況および今」を調査
- ③プレ・シングルの相談の実態について調査

本事業の目指すゴールイメージ

(対象者 : 本事業による解決できる課題の仮設)

①離婚を考えている人

→衝動的な離婚を回避することで、離婚後の精神的・経済的・体力的な負担を軽減し親子の生活再建のため身近な場所で相談できる場所が確保できる。

②離婚後の子ども・親

→保護者が離婚前にしっかりと準備、協議をおこない、取り決めをしておくことにより、子どもがその後精神的経済的に辛い思いをすることが軽減される

→離婚前に様々な情報を得たり取り決めをしておくことで離婚後の生活が安定しやすくなり子どもへの負担が軽減できる

③子育て支援団体

→これまで自信をもって支援の手を差し伸べられなかった離婚を考えている家庭への支援や情報提供が出来るようになる。

④行政

→香川県子ども政策課では離婚後の支援策はあるが離婚前の相談体制を持っていない。民間が受け皿になることで取りこぼしが無くなる

質問5 離婚について考えたことがありますか？（いずれか1つにチェック）

質問6 『離婚を考えたことがある』と答えた方にお聞きします。

離婚を考えた主な理由を教えてください

- 子育ての考え方 経済的なこと 生活スタイルの違い 家事・育児分担 義理の親との関係
 相手から離婚を要求された 浮気 パートナーのこを受け入れられなくなった その他（ ）

質問7 最初に誰に相談しましたか。

- 誰にも相談していない 家族 友人 職場の同僚など 地域子育て支援拠点
 市町村の専門相談窓口 児童相談所 法テラス香川 弁護士事務所（法テラス以外） その他

質問8 最も頼りにした相談相手は誰ですか。

- 誰にも相談していない 家族 友人 職場の同僚など 地域子育て支援拠点
 市町村の専門相談窓口 児童相談所 法テラス香川 弁護士事務所（法テラス以外） その他

質問9 離婚に関して、あなたがとった行動で当てはまるものすべてにチェックしてください

- 離婚手続き等について調べた 誰かに相談した SNS等ネットで自分の気持ちを吐き出した
 相談したいができていない（相談したかったが、できなかった） パートナーに話した
 自分の中で考え方を考えて解決した モヤモヤしていたが何もしなかった その他

質問10 現在のあなたについて教えてください

- 離婚した → 質問11に進む 離婚しなかった → 質問14に進む 離婚協議中 → 質問17に進む

質問11 『離婚をした方』にお聞きします。離婚された年を、西暦で記入ください。

質問12 『離婚をした方』にお聞きします。離婚後困っていることはありますか。

- 困っていない 経済的なこと 子育ての負担 家事の負担 相手からの変わらない連絡
 仕事と子育ての両立 その他

質問13 『離婚をした方』にお聞きします。離婚後頼りにしている人はいますか

- 頼りにできる人はいない 家族 友人 職場の同僚 地域子育て支援拠点 市町村の専門相談窓口
 児童相談所 弁護士 社会福祉協議会

質問14 『離婚を考えたが離婚をしなかった方』にお聞きします。その理由をおしえて

- 話し合いで解決した 経済的な理由 子どものことを考えて 離婚させてもらえなかった

離婚した当事者12名から

離婚してどうだったか

離婚原因

離婚を考えた時誰に相談したか

離婚までにかかった期間

離婚まででしんどかったこと

離婚後の困りごと

支援団体 23団体から

離婚前相談があるかどうか

相談の内容は

相談後の支援内容(どこにつないだか、情報提供等)

支援内容の過不足など後で感じること

■数量調査から見えたもの

・子どもの年齢が高いほど(婚姻年数が長いほど)離婚について考えたことがある。そのうち0歳から2歳の子をもつ親では、20%が離婚について考えたことがある。そこから、10人のうち2人はすでに夫婦関係について悩みを抱えている事が分かった。

・離婚を考えた人のうち、誰にも相談していない人は、離婚する割合が少ない。夫婦関係の悩みは表面化しにくいことが分かる。

・相談相手として、家族。友人が多い。市町村の相談窓口は0人。そこから見えたのは、身近な相談相手が必要であるということ。

・実際に離婚した人の決め手となったのは、経済的な理由と浮気。

・父親と母親の差はない。

■ヒアリング調査から見えたもの

子どものことを考えて、ギリギリまで我慢している。
離婚したことについてはよかったと思っているが、離婚前の保護者のメンタルの不安定さへの支援が必要

* 「子育て美容eki」はとても意味がある。美容室で長時間いる、色々な経験を聞いているからこそ、実際の現状のアドバイスをもらえた。最終美容師に相談して決めた人もいる。

* ひとり親予備軍は、経験者の話が聴きたい。

今後(今期中)の実施予定

■支援者向けひとり親前相談プログラムの開発

■支援者向け養成講座

■報告書の作成・発表

※事業評価指標：支援者（ひとりサポーター）向け養成講座の理解度の段階

1段階	当事者(シングル家庭)の現状やニーズが分かる。
2段階	ひとり親、ひとり親になる前の相談における支援の現状、支援者の課題が分かる。
3段階	子育て家庭における夫婦の育児・家事・仕事の分担、周囲との関係、メンタルヘルスの状況などを含めた夫婦関係の現状と課題が分かる。
4段階	当事者(シングル家庭)の現状と課題を把握し、相談を受け、その家庭の環境や状況に応じた情報提供ができる。

◎ 翌年以降…

実際にひとり親前相談プログラム受講終了後に受講団体が実際に相談会等を開催したか、実施に向けてのサポートをしていきたい

また日々の相談業務の中でひとり親前に向けての相談がどれくらいあったかなど調査し、実際に開催した人は、どのようにプログラムで学んだことを活かしたか確認しブラッシュアップしたい。